



2022年11月9日

各 位

会 社 名 株式会社キムラタン  
代表者名 代表取締役 清川 浩志  
(コード番号 8107 東証スタンダード)  
問合せ先 常務取締役 木村 裕輔  
(電話 078-806-8234)

### 営業外費用の計上及び2023年3月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2023年3月期第2四半期決算におきまして、営業外費用を計上いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、2022年5月13日に公表いたしました、2023年3月期の通期連結業績予想について、下記のとおり修正いたします。

#### 記

##### 1. 営業外費用の内容

###### (1) 為替差損の計上

当社は、2023年3月期第2四半期連結累計期間において、為替差損37百万円を計上いたしました。これは主として、同期間中に生じた大幅な為替変動により、仕入の計上時と決済時及び期末日の為替レートの差により生じたものです。

###### (2) 借入手数料の計上

当社は、2022年9月22日付「シンジケートローン契約締結に関するお知らせ」記載のとおり、将来の金融費用の圧縮を図り収益改善につなげることを目的として、シンジケートローン契約を締結し、2022年9月30日付で当社及び当社子会社の既往借入金の借換え資金として総額55億46百万円を調達いたしました。本シンジケートローン契約に係るアレンジメントフィー等の借入手数料1億46百万円を営業外費用に計上いたしました。

なお、当該費用については、将来の利息負担の軽減を考慮すると、3年内には回収できるものと判断いたしております。

##### 2. 2023年3月期通期連結業績予想の修正 (2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 4,000	百万円 160	百万円 60	百万円 50	円 銭 0.34
今回修正予想 (B)	4,000	△300	△620	△630	△3.48
増減額 (B - A)	0	△460	△680	△680	—
増減率 (%)	0.0	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2022年3月期)	4,237	△564	△609	△892	△6.07

(修正の理由)

当社グループでは、当 2023 年 3 月期を構造改革の年として、当社アパレル事業の大幅縮小による多額の赤字の解消を果たすべく、2022 年 12 月までに全国に展開する 208 店舗の閉鎖を計画し、2022 年 5 月より順次店舗の閉鎖を実施するとともに、閉店セール及び EC 販路を活用した在庫の徹底消化とキャッシュ・フローの最大化に取り組んでまいりました。

当第 2 四半期においては、110 店舗の店舗閉鎖を実施しましたが、閉店セールにおける販売が想定以上に好調であることを踏まえ、当社アパレル事業の持越し在庫について、この機を活用し完全消化を図ることが、合理的であり将来の収益改善のためには健全であると判断し、段階的に値引率を深めながら販売強化に努めた結果、前年同期の倍以上の販売推移となり、在庫消化は計画以上に進捗しました。

一方、当第 2 四半期において、日米間の金融政策の違いを背景に急速に円安が進んだことから、当社及び子会社の仕入れコストが大幅に上昇することとなりました。

以上の要因により、当第 2 四半期におけるアパレル事業の売上総利益率は 31.0%と前年同期に対し 17.3 ポイント低下、計画値を下回る結果となっており、引き続き在庫の販売強化を実施すること、円安の影響は下期においても継続すると予想されることから、通期においても売上総利益率の低下が見込まれます。

以上に加え、不動産 M&A の実施に伴う株式取得関連費用 1 億 49 百万円を販売費及び一般管理費に計上したことから、通期の営業損益は前回予想を 4 億 60 百万円下回る 3 億円の損失となる見通しです。

さらに、前記「1. 営業外費用の内容」に記載の為替差損の計上、借入手数料の計上を行ったことや借入金の支払利息の増加により通期の経常利益及び当期純利益は、前回予想を 6 億 80 百万円下回る見通しです。

(注) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上